

首都圏観察実習による首都圏への教員志望の動向

大河原清* 伊藤一彦* 荻間澤勇人**

(2011年3月4日受理)

OOKAWARA Kiyoshi, ITO Kazuhiko and KARIMAZAWA Hayato

Students' Ambitions Towards Becoming a Teacher in the Tokyo Metropolitan Area after
a 4 Day Study Trip to Chiba Prefecture.

Keyword: 観察実習 教員採用 服装・持ち物ポンチ絵

1 はじめに

首都圏で観察実習をすることが、首都圏での教員志望を促すか、ということを実証する。首都圏の一つ、千葉県の公立学校(小・中)において、観察実習を2009年に続いて、2010年に2回目を実施した。その目的は、地元岩手県の教員採用状況が厳しいために、学生に首都圏での受験を勧めるためである。他県での観察実習であり、千葉県教育庁の協力を得られたことも幸いして、2009年の反省を踏まえて、学生の要望に配慮して、特別支援学校を加えるなど、本格的な校種別実習を実施することができた。

本研究は、2010年の観察実習についての実施前後のアンケート調査結果を中心に、首都圏就職に対する不安や、地元岩手県を離れることの不安、さらに首都圏受験に対する意識変容を、2009年実施のデータとの比較を織りまぜながら、述べることとする。

2 研究目的

首都圏の一つ、千葉県教育庁の協力を得て、千葉県観察実習を実施することで、参加学生の首都圏に対する教員採用試験受験不安を解消できるかどうかを明らかにする。

次に、2009年、つまり初めて首都圏観察実習に

参加した者の、その後の教員採用試験受験の傾向と採用状況について述べる。

本研究成果は、今後も同様の観察実習を実施する場合に、どのような点を改善すれば、さらにより良い観察実習ができるようになるかについて提言するものである。

3 観察実習の実施方法(ルートおよび日程)

日程は2010年2月21日から24日の3泊4日であった。初日と最後の日は、移動日であり、その間の2日間は、観察実習に当てられた。

2010年2月21日に岩手県盛岡市を出発して、その日の夕方に大房岬少年自然の家に着し、就職5年前後の若手先輩教員との交流会を、翌22日に田舎の小中学校見学を、午後から浦安市のうらめーるに移動し、翌23日に浦安市での都会の小中特別支援学校での本格的参加観察実習をした。同日の夕方にベテランを含む先輩教員との交流会を実施した。24日は、午前中に東京ディズニーランドを中心とする市内自由探索として、午後盛岡へ向けて帰省し、21時に岩手大学に到着した。

より具体的には、21日午前7時に盛岡市にある岩手大学を出発して、東北自動車道を進み、栃木都賀JCTから北関東自動車道を東進して、友部SAから常磐自動車道を南進して、つくば牛久IC

*岩手大学 **岩手県立盛岡農業高等学校

に入り、稲敷ICを降り、国道408号線を南進して、成田市の航空博物館を見学した。見学時間は30分ほどであったが、学生には千葉県的一端を見させたのである。

次いで、館山自動車道を南進して、大房岬（タイプサミサキ）少年自然の家にて、若手先輩教員3名との交流会を実施した。交流会は2時間程度であり、3名が中央前にて学生に話しかける配置であったために、後日提出された感想文から、一人一人先輩を囲んで話しかかったという意見が、数人から出された。

2日目の22日は少年自然の家から近くにある南房総市立丸山中学校、同市立七浦小学校を見学して、昼食後、浦安市のうら・らめ〜る（浦安市青少年活動センター）に到着し、浦安市教育委員会の先生方の出迎えを受けた。

3日目は朝から、希望校種である浦安市立明海南小・中学校、日の出南小学校、そして県立市川特別支援学校に分かれて、本格的な参加観察実習を実施した。特に小学校では、クラスごとに学生が1～2名ずつ配置され、補助教員として児童をサポートした。特別支援学校では、生徒と一緒に買い物実習に出かけた。早朝の出発時刻が配布プリントで印刷ズレがあり、集合時刻に不都合を生じ、今後は、事前連絡確認の必要性が学生から強く訴えられた。夕方にベテランを含む先輩教員との交流会をオリエンタルホテル東京ベイ（18：30～21：00）にて実施した。

最終日の24日は、午前中の自由行動の後、午後2時に帰省の途につき、21時に大学着となった。

4 参加学生（被調査者）

参加学生の人数は、教育学部3年次生39名（男8・女31）と4年次生1名（女）の計40名（2009年：教育学部3年次生 22名）であった。

報告データの分析対象者は、事前と事後の両方のアンケート調査用紙を提出した38名である。

5 研究方法

一つは事前事後用アンケート調査用紙である。

このアンケート用紙は、大別して2分野に分かれる。1分野は、5段階の程度「5◎非常に良い（大変あてはまる）、4○良い（あてはまる）、3どちらとも言えない、2×やや悪い（あまり当てはまらない）、1××非常に悪い（全然あてはまらない）」で、21個からなる質問項目からなる。2分野は「参加目的、受験の意志、観察実習で学びたいこと、交流会で聞きたいこと、その他要望」を記述してもらうものである。

二つは観察実習終了後、参加学生が大学に戻ってから提出してもらった報告文による。

一つ目の21項目からなる質問紙は、同じ質問項目によるものを、岩手大学から千葉に向かう往路時、つまりバス乗車開始時の事前用と、観察実習を終えて、復路時の、千葉から岩手大学に戻る際の事後調査用として実施した。

二つ目の報告書は、事前調査時に「帰って来た後には、報告書の提出があること」を予め知らせた。報告事項は、訪問先の日程表を示すと共に、その順序に沿ってあらかじめ項目を指定しておいた。たとえば、「往路のバス乗車をして」や「○小を見学して」などであった。

6 参加学生の千葉県受験の意志の変化（以下、前年データは2009年として明示する。表示されていないものは、2010年のデータである）

事前・事後調査結果を見る上で、参加学生の千葉県教員採用試験についての受験意志は重要となる。事前・事後調査用紙の質問項目Q23で、それを調べた。

「現時点で千葉県の教員採用試験を受験する意志がありますか」（Q23）

ア 受験する意志がある（事前30名⇒事後34名）
（2009年：事前13名⇒事後19名）

イ 考慮中である（事前7名⇒事後3名）（2009年：事前7名⇒事後3名）

ウ 受験する意志が無い（事前1名⇒事後1名）
（2009年：事前2名⇒事後0名）

調査結果から「受験する意志のある者」が30名から34名に+4と、増加した(2009年では13名から19名へと6名増加)。考慮中の者は7名から3名(2009年では同数の変化)に、さらに受験する意志が無い者は1名から1名と不変であった(2009年では2名から0名に減少)。つまり、事後には、考慮中が減少し、かつ受験意志が増えたことが分かる。

6-2 受験意志の変化に及ぼした実習中の事項

受験意志の変化に及ぼした実習中の事項とは何か。質問項目Q22に、それを知る手がかりがある。

「今回の観察実習に参加する目的は何ですか(複数を丸で囲むことができます)」(Q22)(事前調査用)

「今回の観察実習で、一番良かったことは何ですか」(Q22)(事後調査用)

ア 千葉県の学校を見学したこと(事前35名⇒事後12名)(2009年:事前名22⇒事後9名)

イ 千葉県の児童・生徒に接したこと(事前32名⇒事後30名)(2009年:事前名18⇒事後12名)

ウ 千葉県の地域を観察したこと(事前26名⇒事後6名)(2009年:事前12名⇒事後4名)

エ 先輩の話を聞いたこと(事前22名⇒事後8名)(2009年:事前12名⇒事後9名)

オ その他・・・(2010年:1名⇒0名)(2009年:2名⇒0名)

ただし、この質問項目は事前が複数選択を許しているのに対して、事後では「一番良かったこと」と選択を狭めている点に注意して欲しい。出発前にはアイウエ項目を多数選択しており、事後には、イが最大となり、児童・生徒に接したこと(53.6%)が一番良かったようである。次いで、学校を見学したこと(21.4%)、そして先輩の話を聞いたこと(14.3%)である。地域の観察(10.7%)も大切であるが、人とのかかわりが重要であることが伺える。

児童・生徒と接する場面では、一緒に給食を食べたり、掃除をしたりするなど、児童・生徒の授

業に加わる他に、参加学生が児童・生徒と活動をしたことが役立つものと思われる。

7 事前と事後において顕著な差の見られた項目

事前調査と事後調査について、単純な平均値の差をとり、さらにその差がマイナスの場合には、差の絶対値を取ることでソートした結果について述べる。以下は、2010年実施の2回目の結果を中心に述べる。対応のある差の両側検定結果を付して示す。

被調査者数38名で、調査項目数は21個である。これらのうち、1%水準(**)で差が認められる項目数は11個、5%水準(*)で差が認められる項目数は2個、差が認められない(non)項目数は8個であった。

単純な差の大きい方からそれらを列挙する。

「20千葉県を身近に感じた」(m=2.82(sd=1.16)→4.45(sd=0.55),**) (2009年:m=2.32(sd=1.17)→4.64(sd=0.6),**)

「6千葉県の子供たちに親近感を抱いた」(m=2.92(sd=1.08)→4.29(sd=0.98),**) (2009年:m=2.77(sd=1.07)→4.68(sd=0.6),**)

「21千葉県教育委員会の先生にお世話になった」(m=3.71(sd=1.14)→4.82(sd=0.39),**) (2009年:m=4.32(sd=0.84)→4.95(sd=0.2),**)

「13先輩や管理職のOBに会い不安が減った」(m=3.32(sd=1.23)→4.29(sd=0.8),**) (2009年:m=3.68(sd=0.99)→4.82(sd=0.7),**)

「14先輩達に話を聞いて、千葉に行ってもいいかなと思った」(m=3.71(sd=1.25)→4.61(sd=0.59),**) (2009年:m=3.59(sd=0.91)→4.86(sd=0.4),**)

「16千葉の子どもたちは岩手の子どもたちと同じだった」(m=2.74(sd=1.03)→1.97(sd=0.88),**) (2009年:m=3.14(sd=1.04)→1.59(sd=0.6),**)

「5千葉県は盛岡から遠いと感じない」(m=4.24(sd=0.85)→3.5(sd=1.31),**) (2009年:m=4.09(sd=1.15)→2.82(sd=1.2),**)

「3千葉県の教員になってもやっつけていける自信を持った」(m=3.29(sd=0.98)→3.95(sd=0.86),**) (2009年:m=2.73(sd=1.2)

→4.05 (sd=0.9), **)

「4 千葉県の教員になることに不安が無くなった」(m=3.24 (sd=1.05) →2.58 (sd=1.03), **) (2009年: m=4.05 (sd=1.13) →2.23 (sd=1.1), **)

「8 後輩にもこのような形での首都圏等の観察実習を勧めたい」(m=4.34 (sd=0.88) →4.79 (sd=0.47), **) (2009年: m=4.27 (sd=0.83) →4.82 (sd=0.4), **)

「10参加費用は安かった」(m=4.08 (sd=1) →4.47 (sd=0.64), **) (2009年: m=3.91 (sd=1.23) →4.18 (sd=1.1), **)

「18友達と一緒に千葉に来て教員になるなら、心強い」(m=4.08 (sd=1.08) →4.45 (sd=0.76), sd=1.08→0.76,**) (2009年: m=4.18 (sd=0.66) →4.36 (sd=1), *)

「15千葉県で教員になりたい」(m=3.39 (sd=1.03) →3.68 (sd=1.01), **) (2009年: m=3.18 (sd=1.01) →4.05 (sd=0.8), *)

以上が両側検定結果、統計的に有意差のあった項目である。

次に有意差のなかった項目は、次の8項目だった。差は無かったものの、差の大きい方から小さい方の順序で述べる。

「7 岩手県との違いを感じない」(m=3.45 (sd=0.86) →3.18 (sd=1.22), non) (2009年: m=3.86 (sd=1.08) →2.52 (sd=1.2), **)

「19岩手県に合格すれば、岩手県に残りたい」(m=3.76 (sd=1.53) →3.55 (sd=1.46), non) (2009年: m=3.82 (sd=1.62) →3.64 (sd=1.5), non)

「12故郷を離れるのは不安である」(m=3.16 (sd=1.31) →2.97 (sd=1.26), non) (2009年: m=3.27 (sd=1.61) →3 (sd=1.3), non)

「1 参加して良かった」(m=4.71 (sd=0.52) →4.87 (sd=0.34), non) (2009年: m=4.55 (sd=0.6) →5 (sd=0), **)

「9 先輩の話は役立った」(m=4.58 (sd=0.6) →4.74 (sd=0.5), non) (2009年: m=4.77 (sd=0.43) →4.91 (sd=0.3), **)

「17千葉で教員になるなら、両親を千葉によびたい」(m=1.39 (sd=0.68) →1.55 (sd=0.79), **) (2009

年: m=1.45 (sd=0.96) →1.77 (sd=1.1), non)

「2 千葉県の地域について得るものがあった」(m=4.79 (sd=0.47) →4.84 (sd=0.37), **) (2009年: m=4.82 (sd=0.39) →4.91 (sd=0.3), non)

「11この企画は大変良かった」(m=4.63 (sd=0.67) →4.66 (sd=0.62), non) (2009年: m=4.59 (sd=0.5) →4.91 (sd=0.3), **)

以上が両側検定結果、2010年実施において、統計的に有意差の無かった項目である。

これらの結果が示す通り、実際に観察実習を通して、岩手の子供たちも千葉の子供も同じように感じ、千葉県受験に対する不安が軽減していることが伺える。

8 自由記述に見る学生の意識変容

千葉県観察実習に参加しての感想・要望文の中に、学生の意識の変容を知ることができる。以下は、提出されたうちの1事例である。

教育学部学校教育教員養成課程小学校コース(Y. N.)

(感想)「千葉の教員になりたい」今回の実習を終えて強く残っている思いは、この言葉に尽きる。この思いはこの観察実習に行ったからこそ自然と沸き起こってきたものだ。

私はこの観察実習に行く前、岩手と千葉県を併願しようと決めていた。しかし心の片隅には「千葉県は首都圏。保護者や子どもも都会じみて岩手のような田舎から出て教員になり、勤務を継続していけるのか？」という不安の塊がいつまでも存在し続けた。この観察実習ではその思いを払拭し、心から千葉県の教員になりたいと思って教員採用試験を受験するための足がかりとしよう、そのような目的で参加させていただいた。

4泊3日の観察実習の中には、「千葉の教員になりたい」と思わせるような企画が要所、要所に散りばめられていた。その中でも私が最も印象に残った事柄について以下に二点ほど挙げたい。まず一つ目は実際に千葉の子どもたちと触れ合えたことである。この観察実習においては、2日目

に岩手の風土に似通っている田舎の方の学校を参観し、3日目に高層ビルやマンションが林立する都会の学校という対照的な二種類の学校を参観した。

2日目においては、一学年10人程度の学校であり、学校の周囲は海と山で囲まれまるで岩手のような穏やかな雰囲気であった。子どもたちと給食や昼休みの時間を共に過ごしたが、子どもはどこにいても変わらないという印象を受けた。

3日目は2日目の環境とは打って変わって、周囲にマンションが立ち並ぶ一角地にある小学校のため、少し緊張気味で学校に足を運んだ。しかし、ほぼ一日子どもたちと過ごしてみてこちらにおいても、子どもはどこにいても変わらないという思いにいたった。

この2日の経験で、千葉県にも岩手と似た雰囲気の地域があること、そして子どもはどこに行っても変わらないということを身をもって知ることができた。

印象に残ったことのもうもう一つは、現職の教員の方々と交流できたことである。3人の教職経験5年以下の先生方から、実際に教員になってみての生活や苦勞を耳にした。それによって、様々な不安を抱いていた教員生活に光が見えてきたように思う。

以上に挙げたことは、大学に在るだけでは決して理解することのできない貴重な体験である。教員採用試験の勉強も必要であるが、このような企画によって他県の学校現場を知ることが自らの視野を広げることにつながると思う。また、この観察実習で寝食を共にした教育学部と人文社会学部の仲間達とも、不思議と結束力が強まった。その仲間たちの中には、私が大学に入学してから話したこともない人もおり、友達の輪も確実に広まった。「チーム千葉」という仲間関係が生まれたのだ。千葉県の受験をするかどうかで迷っている、もしくは関東圏のどの県を受験するかでまよっている後輩たちにはぜひこの企画に参加してほしい。千葉の教育を知り、大学生同士の仲間の輪を広げることのできた今回の実習は、非常に密度の濃い3

泊4日であった。

このような貴重な機会を計画するには多大な時間と労力が必要であったことを思うと頭があがらない。千葉県観察実習を企画していただき、本当にありがとうございました。

(要望) 最後にはあるが、後輩たちのために観察実習の改善してほしい部分を一つ述べたいと思う。それは、1日目の現職の教員の方々との交流場面である。交流ができたこと自体は非常に自分の糧になったのだが、交流の方法が少しばかり気になった。あ那时的交流は教員の方々からお話を頂き、学生が質問して答えるという形式であった。この形式はどうしても教員の方々と学生全体が向き合って話すためどちらも緊張し、本音を聞きづらい、もしくは言いづらい雰囲気にさせてしまっていた。わたしはその交流会が終わったあと、個別に教員の方々の所へ行き質問を投げかけたことにより自分の不安が解消したところが大きい。したがって、来年からは一人の先生の周りに学生が集まって輪をつくり、雑談するような形でこの時間を計画してほしいと思う。

9 観察実習改善のための提案と感謝

[①実習前事前説明会の必要性] 連絡事項が全員に徹底していなかった。

[②実習中、持ち物や時刻の打合せ会の実施と日々連絡の必要性] ジャージを取りに戻ったので、持ち物(箸)や出発時刻など、連絡は直前ではなく、事前にきちんと欲しい。連絡で誤った連絡があり、改善して欲しい。連絡が伝わらず、困ることがあった。1日ごとの流れの確認ができる場が欲しい。

[③懇親会の座席配置と名簿の必要性] 懇談会では、先生や先輩の居ないテーブルがあったので、つまらなかった。改善して欲しい。学生だけの席があったので、均等に配置して欲しい。飲める酒がなかったので、つまらなかった。偉い方の名簿が欲しい。懇親会は二次会も欲しい。

[④内容検討 (1) 希望する校種見学を] 特別支援学級の見学を希望していたが、見ることができ

なかった。もう1校くらい見学したい。

[⑤内容検討(2) ディズニーランド見学の必要性]本当に必要なのか。目的は学校参観であり、ディズニー目的で参加するような半端な人には教師になって欲しくない。早く帰り勉強がしたい。見学後の盛岡着では、平日の夜9時以降になるので、電車通学のために終電がなく、家に帰るのが大変である。夕方には大学に着けるようにして欲しい。

[⑥夜行バスでの移動を希望する]

[⑦参加費] かなり安かったですが、さらに1000~2000円安くなると参加者にはかなり楽になります。

[⑧役割分担の必要性] 実習リーダーを決めた方が良い。先生方や教育委員会の方の負担が大きいのので、学生側で実行委員を作り、学生が計画できる分は、学生が動ければと思った。お礼の挨拶・言葉など失礼になるので、事前に担当を決めて欲しい。

[⑨感謝] 本当に良い旅でした。来年も実施して欲しい。千葉の方々には本当にお世話になりました。3日間とても充実した毎日を過ごすことができ、教員採用の勉強に加え、いろいろなことにチャレンジしようと思った。

10 観察実習のための教材

地元ではなく、都会での観察実習はより短期的実施であることと、事前打合せを十分に行えない状況がある。実習校の行事など突然の変更もある。このような短期的観察実習に対応するためには、児童・生徒と直接活動に入るという本格的実施を見越して、学生には準備をさせることが求められる。具体的には、いわゆる正装としてのリクルート型のネクタイとスーツを基調とするものと、運動や清掃時のジャージ、運動靴の準備を、さらに今回の場合には、昼食のための自分用のお箸、スプーン等の準備である。

衣服については、ポンチ絵などで示すことも必要である。しかも正装用と運動用の二着を、毎日準備することが事態の急変に備えて大切となる。

ホームページにはリクルート型のスーツを来た新入社員のポンチ絵があるので、今後はそうした絵に、必要な注意事項と必要な持ち物の説明を付した説明教材を提案する。

11 参加学生の千葉県受験の状況 (2009年観察実習参加者データから)

2009年の参加学生22名中、千葉県の教員採用試験を受験した者は12名おり、受験率は約55%であった。約1/2が受験していた。受験者12名中、合格者は9名おり、合格率は約75%であった。4人に3人は合格していた。さらに、岩手県に既に合格している学生で、千葉県に就職した学生が2名おり、観察実習への参加を通して、千葉県で教員になる魅力を、この2名は強く感じたようである。

なお、2010年の3年次参加学生39名中、7月の千葉県採用試験で合格した学生は、10月26日時点で、15合格していることが分かった。

12 謝辞

これまでに過去2回の観察実習を実施するにあたり、千葉県教育庁の先生方に大変お世話になりました。観察実習に御協力頂きました千葉県の実習校の先生方にも大変お世話になりました。また岩手大学教育学部教育後援会の支援も受けました。ここに記して、心から深く感謝を申し上げます。